

# 催芽粃湛水散播栽培で稲作を省力化

## とってもシンプルな湛水直播、ポイントは水管理



浸種した種子  
コーティングなし



湛水状態でばらまき



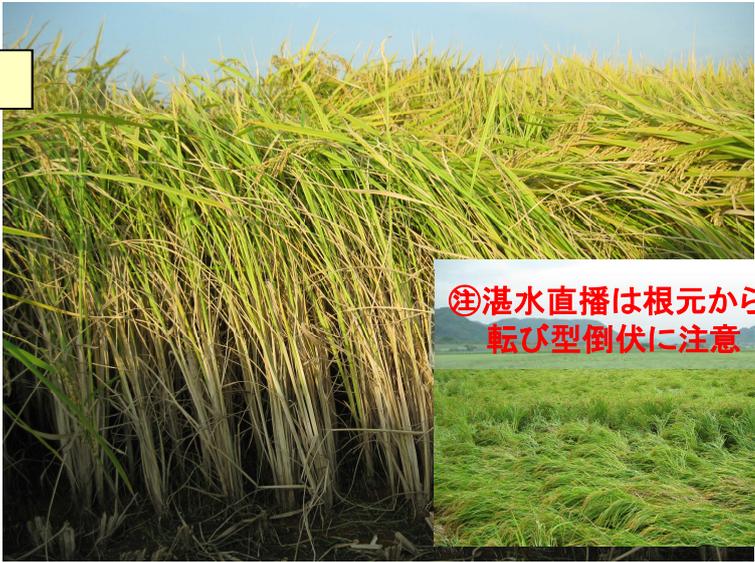
表面ですぐに発芽

しばらく湛水、雀を回避



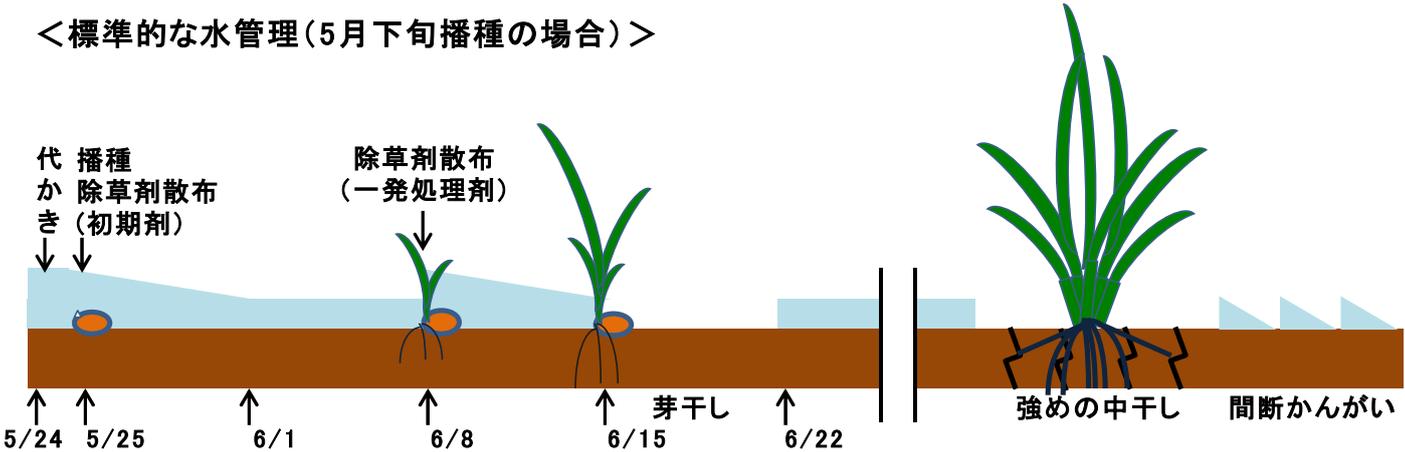
芽干し

しっかり中干し、倒れにくい稲に



②湛水直播は根元からの  
転び型倒伏に注意！

### <標準的な水管理(5月下旬播種の場合)>



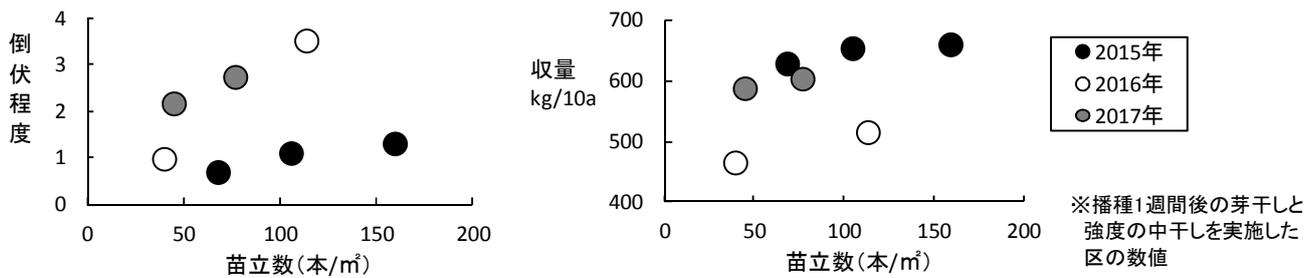


図 湛水散播水稻の苗立数と倒伏程度および収量の関係

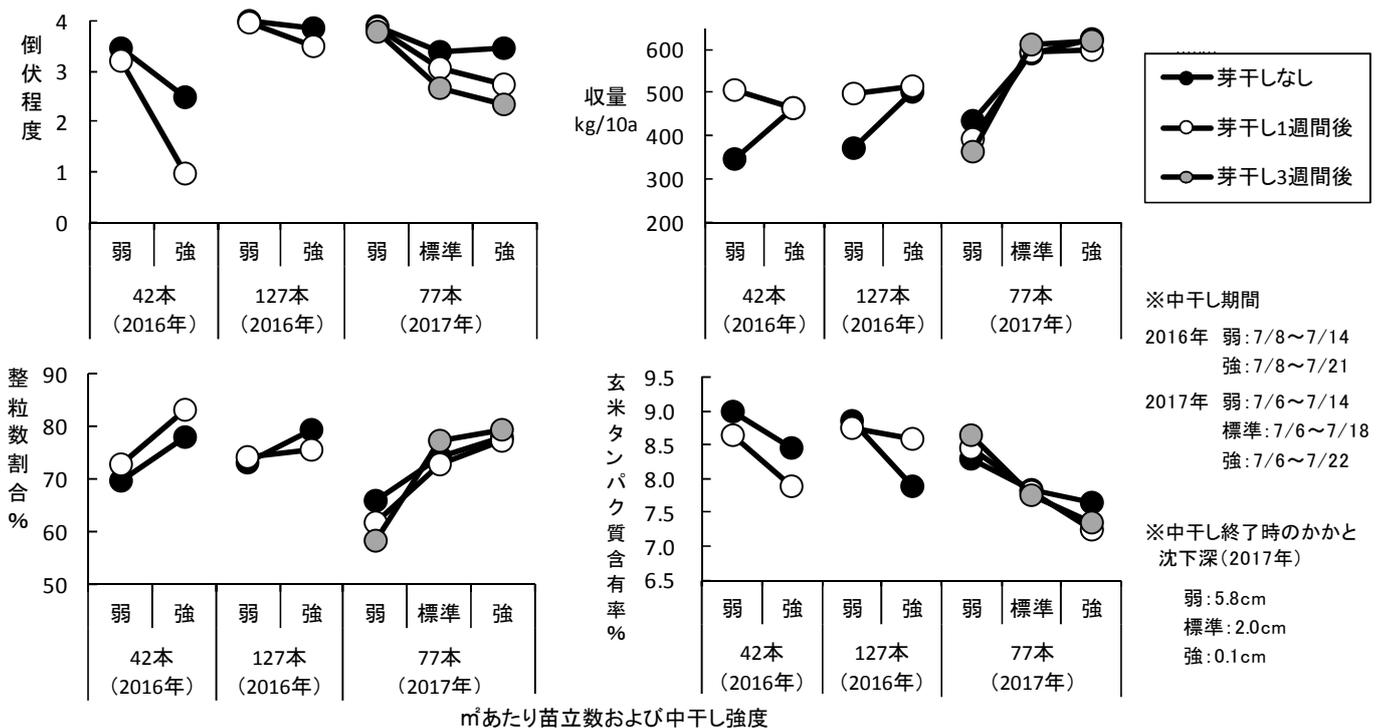


図 芽干しおよび中干しが湛水散播水稻の倒伏程度および収量品質に及ぼす影響

注) 農業試験場(細粒灰色低地土)における試験、供試品種きぬむすめ  
 5月下旬に催芽籾を湛水状態で散播、芽干し期間は1週間  
 施肥N量(kg/10a)は基肥2、中間追肥3、1回目穂肥3、2回目穂肥2  
 除草体系: 播種後当日初期剤、播種の2週間後以降に一発処理剤または中期剤を散布

- コーティングを行わない催芽籾を代かきの翌日以降に湛水状態でばら播く栽培法です。
- 「きぬむすめ」などの倒れにくい品種が適します。
- 苗立数が多いほど倒れやすくなるので、目標苗立数は50~100本/m<sup>2</sup>程度とします。播種量は乾籾で4~5kg/10aが目安です。
- 芽干しと強めの中干しを行うことで、稲が倒れにくくなります。田んぼに入ったときのかかとの沈み具合が数mm程度の硬さになるまで中干ししてください。
- 強めの中干しを実施することで、収量が安定し、外観品質も向上します。また玄米蛋白含有率が低下して食味が良くなる傾向があります。

(問い合わせ先) 鳥取県農業試験場 作物研究室 電話 0857-53-0721

本書から転載・複製する場合は、必ず農業試験場の許可を受けてください。